

「校長室の窓から」

<https://dmzcms.hyogo-c.ed.jp/nishiwakikita-hs/>

令和8年(2026)8月6日(木)

第25号 発行: 隈元 優一

☎0795-22-5850/FAX: 0795-22-7359

「AI時代」をどう生きるか？ -宮脇氏の語る『ものづくり』と『問いを立てる力』-

校内生活体験発表と同日、同会場において、(株)神戸製鋼で執行役員としてご活躍され、現在は兵庫県教育委員を務められている宮脇新也氏をお招きし、「ものづくりの現状と未来」についてご講演いただきました。70歳を迎えられた人生の大先輩から、これから社会へ羽ばたく生徒たちへ、非常に熱く、示唆に富んだメッセージをいただきました。

宮脇氏は長年、製鉄の最前線で活躍されてきました。その歩みの中で一貫して大切にされてきたのが「三現主義(現場・現物・現実)」という教えです。何か問題が起きたとき、机の上で議論するのではなく、実際に「現場」へ行き、「現物」を手に取り、「現実」を目で確かめる。この徹底したリアルへのこだわりこそが、日本の「ものづくり」を支えてきた誇りであると語られました。例として、牛の耳は角より前にあるのか？後ろにあるのか？を問われました。



▲ 演題「ものづくりの現状と未来」

そして、話は現代の、そしてこれからの「AI(人工知能)時代」へと移ります。スマホや生成AIが当たり前となった今、単純な作業やデータの処理はAIが圧倒的な速さでこなしてしまいます。宮脇氏は生徒たちにイラストを示しながら、強く語りかけました。

「AIに首輪をつけられて引っ張られる側になるな。AIを道具として使いこなす『真ん中にいる人間』になりなさい」。AIはどんなに優秀でも、「こうしたい」という自発的な思いを持ちませんし、自分で「問い」を立てることもできません。問題を見つけ、言葉にしてAIに問いかけ、その答えを鵜呑みにせず「本当にそうか？」ともう一度考える。そして、行動の結果に「責任」を持つ。これらはすべて、人間にしかできない営みです。



▲ 宮脇新也氏

講演後の質疑応答で、ある生徒が「勉強が苦手でも、創意工夫する力は身につきますか？」と質問しました。宮脇氏は、「毎日、どうしたらもっと良くなるか、自分に問いかけ続ける訓練をすれば、必ず身につきます。ただね、その考えるプロセスのなかで、学校で習う算数や物理といった基礎がどうしても必要になる。だから、今の勉強も大切にしてくださいね」と答えてくださいました。

生徒代表のお礼の言葉で「ものづくりだけでなく、これからの人生において三現主義の考え方を大切にしたい」と力強く宣言してくれました。

変化の激しいこれからの社会。生徒たちには、自ら問いを立て、創意工夫を重ねながら、自分の人生を自らの手でデザインしていく人間に育ててほしいと願っています。